

FOURLEAF

ギター練習 11 の間違い

知らず知らずのうちにやっつけてしまっている重大な間違い

奥田 喜聖

目次

ギター練習 11 の間違い.....	1
ギターがうまくなる「警鐘」.....	4
お前は誰だ？	4
何故、警鐘を鳴らすのか？	4
「ギターが弾ける」ということはどういう事を引き起こすか？	5
でも、下手するとこんなことになりかねません.....	6
そもそもギターに苦行はいらない	6
なんでギターという趣味で苦しむのか？	7
じゃあ、どうしたら良いのか？	7
〇〇したらうまくいくでは駄目だということです	8
なぜ、「間違い」には価値があるのか？	8
弾けそうな曲を探す、という間違い.....	9
ギターソロばかり練習する、という間違い	10
数稽古	10
中途半端を嫌う.....	11
クリック(メトロノーム)を利用する.....	12
基礎練習、エクササイズを利用する.....	12
音楽理論を勉強する.....	13

他人の「正解」をあてにする.....	13
止まる、弾き直す.....	14
出音を気にする.....	15
ビビる.....	16
間違いを知ってどうすべきか？	17
終わりに.....	18

ギターがうまくなる「警鐘」

今、あなたが手にしているのはギター上達を起こすために必要な「警鐘」です。ここでこれから記すことは、僕が21年の音楽活動の経験と、5年のプレイヤー経験、19年のギター講師経験を通して1500人以上の生徒達と導いてきた中で培ったギター上達のために必要な警鐘です。(2018年4月現在)ここで紹介されている内容はもちろん、数ある警鐘の内的一部分にすぎません。

しかし、甘く見ないでください。この電子書籍で書かれていることは多くの方が気づいていない事であり、無視してきた事です。そして、未だにこの内容には気づいていない人が多いです。

是非、この電子書籍を読んで放置するのではなく、いつでも読める様にスマートフォンに保存してください。迷ったらここに戻る様に。

お前は誰だ？

先に自己紹介をしておきましょう。最初に大きなことを書いているので。僕は奥田喜聖といいます。現在は奈良でギターレッスンを運営しています。19歳からギターを教え始め、21歳くらいからギターを教えるようになりました。もちろん、当時はレッスンを仕事にするとは思ってなかったのですが、幸いにも「教えてほしい」と言ってくれる人とたくさん巡り会えたことで早くからギターを教える経験を積むことが出来たというだけのことです。

もちろん最初は音楽活動も趣味の一環でしたが、やっているうちに仕事になりました。でも、音楽をビジネスとしてやることに疑問を感じ、音楽で生きる意味を疑い始めました。結果、実質的な意味でドロップアウトすることになります。

そこからギターを教えることをボランティアではなく仕事としてやるようになりました。今はオンライン、オフライン共にギターレッスンは僕のライフスタイルになっています。

何故、警鐘を鳴らすのか？

警鐘を鳴らす理由は現状が不満だからです。

実はギターを「教える」という業界は 20 年前からさほど大きな進歩がありません。例えば、教則本業界なんかはいい例でしょう。

こんなことを言うと失礼かもしれませんが、教則本なんて大して役にも立たないものを見せ方変えて次々リリースしているだけにしかみえないのです。10 年ほど前からでしょうか。ネットが一般家庭にも浸透してきて、状況が変わってくるのでは？と思っていましたが、根本的には何も変わっていません。

確かにネットが普及したことでギターの情報も色んな人が公開するようになりました。それ自体はいいことです。でも、所詮、教則本の焼きましみたいな内容でしかないのが現状です。

その証拠に、これだけたくさんの情報があっても今やお金もかけずにギターうまくなる人が増えてもおかしくない状況なのに僕がギターをはじめた当初によく受けた質問と似たような質問ばかりが耳に飛び込んで来るのが現状です。

つまり、ギター練習している側に大した変化は無い、ということです。

これはおかしい状態です。だって情報量はたくさんあるのにも関わらず、実践している側の悩みが大して変わってないのだから。この状況が指し示す真実は「大した情報しか出回っていない」ということではないでしょうか。

僕は今回、この状況に新しい視点を持ち込みたいと思っています。これからそれを書くのですが、その前に、この新しい視点をあなたが存分に応用することができるようにいくつか確認しておくべきことを提示しましょう。

「ギターが弾ける」ということはどういう事を引き起こすか？

想像してみてください。ギターが弾けたらどんなことが起こるでしょうか。あなたにどんなメリットがあるのでしょうか。考えられることをあげてみてください。

僕はこうでした。

- 優越感
- ちやほやされる
- 達成感

- 自信が付く
- 音楽活動が広がる
- 人間関係が広がる
- 楽しい時間を過ごせる
- 仲間が出来る
- 一生の趣味が出来る
- 遊ぶのに困らない

とまあ、他にもたくさんありまくりですが、わかりやすいところで言うとこんな感じでしょうか。要は、音楽やることはあなたの人生の可能性が広がることに繋がる、といっても過言では無いわけです。

でも、下手するとこんなことになりかねません

こんな可能性に満ちた状態を作ることが出来るギターですが、下手なことをやってしまうとどうなるのでしょうか。想像付くでしょうか。これは・・・

挫折率が急激に高くなるのです。

これは最悪な事態です。そもそも趣味で始めたはずだからやめても問題ない、という捉え方をされる人がいますが、「やめる」という決断に至るまでにかけた時間と労力はどうでしょうか。やめてしまったら、ギターを始めた意味がかなり薄まると思いませんか？

人間にとって真に価値あるものはたくさんあります。そんな中で、あなたにとっても僕にとっても時間と労力はその代表的なものでしょう。そんな貴重な時間と労力が無駄になるのはめちゃくちゃもったいないし、やったことの意味がなくなってしまうなんて悲しいことですよね。だから、出来ることなら続けて弾けるようになった方が良くと思うわけです。

そもそもギターに苦行はいらない

ところがギターに関してはなぜか苦行をやっている人が多いのです。これはおかしなことだと思いませんか？だって元々は趣味で始めている人がほとんどだからです。

趣味でスタートしたということは楽しむためにやったということです。それなのに実際は苦行の

連続……。どう考えてもおかしいでしょ？趣味で苦しんでいるわけだから。

とはいっても、すでに苦しんでいるものはどうしようもないわけです。なので、まずはなぜ、苦しい状況になってしまったのかを確認しておきましょう。

なんでギターという趣味で苦しむのか？

これは「適切な練習」ができてないからです。

ギターなんてものは極端なことを行ってしまうえば物理的な運動です。左手で押さえて右手で弾くだけのことです。この運動を如何に手になじませるか？というだけのことです。

練習というのはそれをやっているだけのことです。適切な練習ができればギターは上達するし、できなければ上達しないというだけのことです。

そして、適切な練習ができなければ、仮に上達したとしても時間がすごくかかります。そして、普通は時間がかかればかかるほどやる気が失せる。つまり、不適切な練習は効率悪いわ、精神衛生上もよろしくない、ということです。

あなたはこんな「不適切な練習をする」という選択をわざわざ取りますか？

じゃあ、どうしたら良いのか？

これは、ギター練習の「間違い」を知って、それをやらないことからスタートするべきなのです。

「え？間違い？適切な練習を知るのではなくて？」と思うでしょうが、これは現実を見たら一目瞭然です。

巷でよく見る練習法というのは「〇〇したらうまくいく」という視点で書かれています。実際、あなたもそういうものをたくさん見てきたではありませんか？

でも、冷静になって考えてみましょう。実際、この視点で書かれた情報をもって練習しているのにうまくやれている人はどれくらいいる

のでしょうか？うまくやれてない人の方が明らかに多いと思いませんか？その証拠に、毎月ギターの本は新たに発行されているわけですし、ギターのサイトなんかもどんどん新しいものがアップされていますよね。つまり・・・

〇〇したらうまくいくでは駄目だということです

そう、「〇〇したらうまくいく」という巷でよく見る練習法では駄目だということです。これにはちゃんと理由があります。

うまくいくことには「偶然」の要素があるからです。これはギター以外の事で考えたほうがわかりやすいかもしれません。試しに今までの人生でうまくいった時のことを思い出してみしてほしいのですが、狙ってうまくいったことってそんなにたくさんありますか？普通はないはずです。「なんかわからないけどうまくいった」ということが意外に多いはずです。これは「うまくいく事」には偶然の要素があることを意味します。要はたまたまうまくいった「部分」があるということなのです。

ここを考えるとある真実が見えてきます。つまり、「〇〇したらうまくいく」という情報ではなく、「〇〇したらうまくいかなかった」という情報に価値がある、ということです。これは言い換えると・・・
「間違い」という視点の情報に価値があるということです。

なぜ、「間違い」には価値があるのか？

間違いに価値がある・・・こういうことを聞かされるとちょっと戸惑うかもしれませんね。あまりにも普段見聞きしない情報だから戸惑うのもわからなくは無いです。でも、「間違い」に価値があるのというのにはちゃんと理由があります。それは・・・

うまくいかないことは必然だからです。ギターに限らず何でもそうかも知れませんが、何かやってうまくいかない時というのは必ず原因があります。ここに偶然は無いのです。うまくいかない時、間違い時というのは原因が絶対あるのです。その原因に気付けるか否かは別にして。

さて、ここまでをちゃんと読んでくれたあなたは何故「間違い」を学ばなければいけないのか十分に理解できたはずですが、ここからはギター練習している時によくある 11 の間違いを示しま

す。

もちろん、間違いは他にもあるのですが、多くの人が見落としている間違いでかつ、影響力の強いものばかりを集めました。まずは一読してみて、ココロに引っかかったものは一読した後でもう一度読んでみてください。

ちなみにこの電子書籍で取り上げた「間違い」というのは「楽にギターが弾けるようになるには？」という疑問に対する答えです。ここで取り上げる「間違い」をしているとギターがうまくならないではありません。ギターがうまくなるのが苦しくなる、と筆者が経験上感じている、という意味だご理解ください。

では、参りましょう。

弾けそうな曲を探す、という間違い

まずはこれです。「弾けそうな曲を探す」という間違いです。これはギタリストのレベルに関わらずやってしまう間違いです。

なぜ、弾けそうな曲から取り組もうとするのでしょうか？それは「弾けない」という経験をしたくないからでは無いでしょうか。弾けないとストレスが溜まるからですね。だから、まずは簡単なものを弾いて「弾ける」という体験をしてから本当に自分が好きな曲を弾こうとするのです。そういう発想で「カエルの歌」とか「きらきら星」からスタートしてしまったりするのです。童謡を選ばなかったにしても「smoke on the water」とか「チェリー」から弾き始めてしまうわけです。「そういうのから始めましょう」という情報もあるからおさらですね。

でも、これ、おかしくないでしょうか？
あなたは、カエルの歌が弾きたくてギターを始めたのでしょうか？キラキラ星が弾きたくてスタートした？ smoke on the water やチェリーが弾きたくて始めたのでしょうか？

もちろん、この問の答えが「YES」ならなんの問題もありません。でも、違うなら「弾ける体験」を先に経験しに行くのは遠回りでは無いでしょうか。「弾きたい曲を弾かない」という選択は自分に嘘をつく行為になりませんか？

「いやいや、俺は弾けたという体験をしないと先に進めないからやっているのだ」という風に思っている場合は計画的に、わざとやっているわけだから良いと思いますが、そうじゃないならどうでしょうか？

ギターソロばかり練習する、という間違い

ギターソロはギタリストの憧れですよ。華がありますよね。だから、憧れるのも理解できずし、テンションも上がると思います。

でも、もし、ずっとギターソロ練習しているのにも関わらず、ギター弾けてる感じがしないという状況だったり、「弾けない状況」がストレスなら考え直すほうが良いかもしれません。

なぜなら、ギターソロというのはリズムも運指も複雑だからです。技術レベルが低いうちに弾けるようになる、というのはなかなか現実的ではないのです。

それに、ギターソロというのは「バンドをやる」「ライブやる」ということを踏まえると非常に効率の悪い練習です。なぜなら、ギターソロが曲中で占める割合は微々たるものだからです。普通、曲というのは3分とか長いやつだと5分くらいのもので。この3分、5分の間にギターソロというのは何秒あるのでしょうか？3分の曲だと大体、10秒から15秒くらいじゃないでしょうか。残りの2分50秒とかは伴奏(バック)なのです。

更に言うと、バックはソロよりもシンプルです。リズムも基本同じリズムをくりかえすし、運指もソロほど複雑ではありません。

たかだか全体の10秒そこの演奏のくせにやたらに複雑なのがソロなのです。

それにあなたはバックを自信持って弾けるのでしょうか？弾けるならいいですが、自信がないならちょっと考え直したほうが良いと思いませんか？だって、ソロはその自信のないバックよりも複雑なんですよ？

数稽古

ギターの練習というと数でなんとかするというイメージを持っている人は多いです。これはある意味正解です。なぜなら、先にも書きましたが、「ギターを弾く」というのは乱暴に言うと左手で弦を押さえて右手で弾くという「動き」をやっているだけだからです。要は動きの問題なのです。だからこそ、数稽古をして体にその動きをなじませようというわけです。別に何の問題もなさそうに見えますよね。

確かに一見問題ありません。でも、動きというのは色々なニュアンスのある概念です。ガチガチに体が硬直してる状態で動かすのも「動き」ならば、力が適度に抜けていて、しなやかに

動かしているのも「動き」。はたまた、完全に力抜ききって完全にコントロールを失っている動きも「動き」なのです。

あなたが数稽古でなんとかしようとしている動きはどんな動きでしょうか？そして、それは数稽古して体になじませても将来的に問題のない動きなのでしょうか？

実際に僕が見てきた例としてはこちらのアドバイスを無視して変な動きを続けた結果、腱鞘炎になった例もあります。いつまでも出音が痛々しいまま変化しなかった例もあります。速さがある一定の部分から上がらなくなったケースもあります。

単純に数稽古ですべて対応して良いのでしょうか？数をこなすことにデメリットは本当に無いのでしょうか？

中途半端を嫌う

僕たち日本人の気質や文化というのはすごく緻密で精密ですよね。それは日本の伝統工芸品とか古美術みたいなものを見ても想像できますよね。一昔前だったら「メイド・イン・ジャパン」は高品質を象徴する言葉でした。

つまり、僕たちは「きちんと」「丁寧に」「最後まで仕上げる」という美德を持っています。実際、僕たちは親に育てられる過程でこういう教育を施されることが多いですよね。「途中で投げ出すな」「きちんと最後まで丁寧にやれ」という教育を施された経験がありませんか？

ところが、僕たちがやっている音楽ではこの美しい気質が裏目に出ることが多いのです。僕たちはギターに取り組む時に最初から「一曲通して弾ける」を目指すことが多いです。そして、それを疑いもしません。なぜならその様に教育されているわけだから。

でも、ギターにおいてこの考えは危険です。なぜなら、曲にはソロもバックも存在しているからです。[ギターソロばかり練習するという間違い](#)でも紹介しましたが、ソロはバックよりも複雑です。ここを踏まえると一曲通すという行為のハードルがすごく上がっている、ということが分かるはず。これで「音を上げずに練習しろ」とか「最後までやりきれ」という方がおかしいわけです。

「中途半端ではいけない」と考えるのはいかなるものなのでしょうか？

クリック(メトロノーム)を利用する

ギターの練習の定番としてクリックを利用したリズムトレーニングがあります。もちろん、クリックを利用するのは間違いではありません。僕も生徒さんを指導する時にクリックを使います。

しかし、あなたはクリックのことをどれだけ知っているでしょうか。僕の経験からするとクリックの本当の意味を理解してギター練習している人はかなりの少数派です。多くはクリックからズレないように自分の演奏を調整しているはずで

でも、よく考えてみてください。それはなんのためにやるのでしょうか？それをやるのが本当にリズム感の向上につながるのでしょうか。そして、リズム感を向上させるのは何故やるのでしょうか？バンド活動が円滑になるから？質の良いライブができるから？

もし、質の良い演奏をバンドで作りたい、ライブで質のいい演奏を披露したい、というならあなたは勘違いしていることがあります。それは・・・

ライブではクリックは鳴らない、という事実です。基本、バンドでライブをやるということならクリックは本番で鳴りません。なのに練習でクリックを利用するのは何故ですか？リズム感の強化と質の良い演奏はどうつながっているのでしょうか？

そういうことを考えずにただ、闇雲にクリック練習をしても意味はあるのでしょうか？

基礎練習、エクササイズを利用する

基礎練習、エクササイズもクリックと同様に定番の練習方法です。実際、この手の練習本も多く出版されているし、ギターのサイトとかでもこの切り口でギター練習を紹介しているサイトはかなり多いです。(ってかほとんどそうですね。)実際、これもクリックと同じでちゃんと理解して利用するなら使える練習方法です。僕も生徒さんには必要に応じて基礎練習のフレーズやエクササイズをやらせることがあります。

でも、基礎練習ってなんでやるのでしょうか？何故やる必要があるのでしょうか？こう問われたときにあなたは明確に答えることが出来るのでしょうか？ただ、単純に「基礎練習やエクササイズのフレーズが出来たらギター弾けるようになる」と思ってないでしょうか？

もし、こう思っているならあなたはおそらくすでに基礎練習やエクササイズをやってきたこと

よう。やってみてどうでしたか？ギターうまくなりましたか？

多くの人は基礎練習やエクササイズの意味を見出さないままそれを利用します。そして、練習した気になっています。でも、うまくなってないなら意味なくないでしょうか？

基礎練習の重要性を説く人は多いですね。確かに重要です。でも、あなたにとって「基礎」とはなんなのでしょう？あなたがやっている基礎練習やエクササイズはあなたにとっての「基礎」をちゃんと身につけさせてくれるものなのでしょう？

こういうことを考えずにギターをやるのはいかがなものでしょうか？

音楽理論を勉強する

ギターがうまくならなと感じる期間が長くなると人によっては音楽理論を勉強し始める人が出てきます。「音楽理論を勉強して、音楽の仕組みみたいなものを知ればギターもうまくなるんじゃないか？」と考えるみたいです。

確かに音楽理論は音楽の仕組みを学ぶものです。仕組みを知ることによって出来るようになることはたくさんあります。

でも、それはあなたが今、取り組んでいることに繋がるのでしょうか？もし、あなたがギター弾けるようになりたい、とおもって音楽理論を勉強していると仮定したらそれは何もつながりません。

だって、演奏することと仕組みを理解することは別にそこまで関係ないから。コードを弾くのにコードの仕組みを知っている必要はないのです。

あなたのやっている勉強は果たして今のあなたに必要なんでしょうか？

他人の「正解」をあてにする

「正解」がすごく気になる人と特に気にならない人が存在します。前者は「正解」がわからないと動けない、という状況を引き起こしたりします。後者はそれが関係ないです。

もちろん、「正解」を気にしていることが悪い、というわけではありません。「正解」は2種類存在するからです。

それが「自分の」正解と「他人」の正解です。
そして、多くは「他人の正解」を軸にギターの練習をします。だからこそ、「正解がわからないと
うごけない」という状況が発生します。

きっとこういう人はすごく謙虚で、自分の感覚や思考を当てにしてないのでしょう。でも、実
はこれ、挫折率が高いことに気づいているのでしょうか？ 何故、挫折率が高いかと言うと、動け
ないからです。行動出来ないからです。練習できないからです。これは言い換えると、「何やっ
て良いのか指示してもらえないと練習できません」といっているようなものなのです。

謙虚な態度でいるのは良いですが、そもそも、あなたのやる音楽は誰の音楽でしょうか？
それをいくらあなたよりも先を歩いている経験者が言ってることであろうが、簡単に鵜呑みにし
て良いのでしょうか。

他人の正解を当てにしているという部分がココロに引っかかるようなら一度考える意味はあ
るのではないのでしょうか。

止まる、弾き直す

たくさんの方のギター練習を見てきて、いつも感じることがあります。それは・・・

「この人、何をたくてギター弾いているんだろう？」
というものです。実際、不思議に思うから聞いてみると「ライブやりたいです」「バンドやりたいで
す」の大体、どちらかを答えます。もちろん、「今は家で一人で弾きたいです」というのもあるの
ですが、そういう人でもいずれは「ライブやりたい」「バンドやりたい」というのが普通です。

で、「ライブやる」「バンドやる」、これらは目標です。でも、「この目標、雲の上のことみたいにな
ってるんじゃないか？」と思うことがよくあるんです。なぜなら・・・

練習しているフレーズを途中で止めたり、弾き直したりするからです。
しかも、すごく自然に、そうすることが当たり前かのように。

「それまずいの？」と思っているかもしれませんね。まずは無いですが、ライブやる、バンドや
るというのが目標になっているんだったらそれらはまずいと言わざるを得ません。

なぜなら、ライブやバンドの演奏では止まったり、弾き直したり、なんてことは基本無いから
です。なのに、それを練習でやってたらいつになったらライブ出来るんでしょうか。それに、仮にラ
イブやるにしても普段の練習において、ライブで絶対にやらないことを癖付けるなんて自分で

自分の首を締めることになりませんか？

もちろん、何も弾けない状態なのに「止まるな、弾き直すな」とは思いませんが、明らかに何も弾けないわけじゃないのにこういうことをやっている人って多いのです。

止まる、弾き直し。
これらは今のあなたに必要な行動でしょうか。

出音を気にする

「音楽は出音が勝負」「出音が良いければ弾き方なんかなんでも良い」
こんな教えがあります。世界中のプロがこういう意見を持っています。もちろん、僕もこのことには賛成です。音楽は耳で聞くものですから。耳に入ってくる音が良くないと話になりません。

でも、それってどんな段階の人にでも通用する教えでしょうか。

音楽はトーンとリズムという2つの要素で考えるとわかりやすいよ、ということを僕はブログ・メルマガ、教材、レッスン、ありとあらゆるところで伝えていますが、多くの人がイメージしている「出音」というのはトーンのことを指し示すことが多いです。

でも、プロが言っている「出音」というのは果たしてそれと同じ解釈でしょうか。
仮に同じだったとして、その解釈をすることは今のあなたに役立つ解釈でしょうか。

個人的にはプロが言っている「出音」というのはトーンだけのことを指しているとは思えないし、仮にそれがトーンのことのみを指し示していたとしてもその解釈が役に立つ人は少ないんじゃないかと思っています。

それは音楽がトーンとリズムから出来ているから、というのはもちろんなのですが、音楽においてトーンとリズムは同時に出力されるからです。同時に出力されるということは両方見ないといけないということです。

なのに、多くの人が解釈しているのは「出音 = トーン」というものです。これでは、いつもトーンを気にして練習することになってしまいます。必ずリズムと共に存在するものなのにトーンのみを気にしながら練習してはうまくいくものもいなくなるのでは無いでしょうか。

あなたの出音の定義は役に立つものになっているでしょうか。

ビビる

「ビビり」という言葉があります。臆病者という意味です。そして、それは損をしていると感じることが多いです。

例えば、レッスンで「弾いてみてください」というだけでビビる生徒がいます。「えー、緊張しますー」とか言われます。でも、これ、おかしくないですか？

そもそもレッスンは生徒のスキルを良くする場所です。ということは「現状のプレイ」を出さないと意味がないわけです。それを何のプライドか、恥ずかしさか知りませんが、ビビるわけです。実は内心こういう生徒を見ると「この人は何しにここに来てるんだろう」といつも思います。

でも、本人は真剣です。真剣にビビっているのです。真剣に恥ずかしいのです。

こんな話もあります。

例えばアドバイスとして「バンドやってください」「ライブやってください」ということを僕はかなりの確率で口にする事が多いです。このときも同じような反応が返ってきます。「えー、わたしにはまだ早いですー」という感じ。

こんなことを言う割に音楽の目的やギターの目的の確認をさせると「ライブやりたい」「バンドやりたい」というものだったりするのです。これもおかしくないですか？

でも、本人は真剣です。真剣にビビっているのです。

今、これを読んであなたはどんな反応をしているのでしょうか。

「奥田さんの言う通り、その生徒は馬鹿だねー」と思っているのでしょうか？それとも「うんうん、分かる分かる、奥田さんそりゃ、怖いよー、ライブとかさあー」と思っているのでしょうか？

前者ならあなたはどうか考える必要があるでしょう。後者なら、目的の再設定が必要です。いずれにせよ、ビビるということにどんな建設的な意味があるのでしょうか？

僕はビビって経験が不足する方が怖いです。「長いことギターやっているのに全然うまくならないんですよー、ハハハ」と言う方が怖いです。

あなたはのでしょうか？

間違いを知ってどうするべきか？

さて、いかがだったでしょうか？なかなか手厳しい意見に映ったかもしれないし、「なるほど！」となってやる気に満ちているかもしれません。はたまた「結局どうしたら良いの？」となっているかもしれませんし、「お前に言われる筋合いねーわ、ボケ」と思われているかもしれません。

まあ、別にどういう風に解釈しても良いと思います。ただ、折角ここまで読んだのなら建設的な解釈をしてほしいと思います。でないと、あなたが一方的に損をして終わるだけ、という一番悲しい結果になってしまうからです。

僕は今、ここまででギター練習やっている人がやっちゃっている間違いの中から深刻な問題につながるものを 11 列挙して簡単な解説を付け加えました。ここで意図したのはあなたにここまで読んで「考えてもらうこと」、「過去を振り返ってもらうこと」「必要なら反省して修正してもらうこと」という 3 つのアクションです。この 3 つのアクションをあなたから引き出すことを意識してここまで書きました。

僕は「間違い」というのは偉大な教師だと思います。経験の中でも最高の学びをくれるものだと思います。僕はテレビをあまり見ないので番組も見たことが無いのですが「しくじり先生」という番組の CM を見たことを思い出しました。CM の感じから推測するに、人の失敗談を学ぶというコンセプトなのではないかと思いました。そして、2013 年からやっている番組みたいなので続いていますよね。つまり、求められている、ということだと思うのです。

この様に間違いと言うのは偉大な教師なのです。

この間違いを知って具体的にどうするべきか？
これをあなたが自分の頭で考えることが重要です。あなたが今、誰かにギターを教わってようが一人で学んでようが、こういう部分で建設的な頭の使い方が出来ないといつまでも変な情報に踊らされたり、誰かに馬鹿にされ続けたりすることになりかねないからです。

だから、今すぐ自分の頭で考え始めてください。

終わりに

いかがだったでしょうか。ここまで読んで、「自分の頭で考えましょう」と言われてもなかなかむずかしいものがあるかもしれません。「そもそも、それが出来ないから練習がうまく行かなかった」という部分もあるでしょう。

それに、「考えましょう、アクションしましょう」と言いましたが、僕はこの電子書籍の最初の目的として設定したのが「間違いを知ってもらう事」としました。知らないとアクションを変えることが出来ないからです。

ところが、間違いを知って、「ハイ終わり、何もしません」という状態では意味がありませんよね。

なので、今後、メルマガやブログでフォローアップをしようと思います。

ただ、フォローアップと言ってもあなたの声が無かったら僕の推測でフォローすることになりかねません。なので、この電子書籍のアンケートに答えていただく形で声を集めようと思っています。アンケートと言っても何も無いところから感想文を書け、と言っているわけではありません。いくつか設問を用意したのでそれに対して答えるだけで済むようにしました。

なので、是非、アンケートにご協力ください。アンケートは以下のリンクから出来ますのでお願いしますね。

[ギター練習 11 の間違いのアンケートはこちらをクリック](#)

そして、基本、僕の情報はメルマガでの発信がメインになっています。メルマガの読者さんからは「目からウロコ」「ギター弾くのが楽しくなった」といった嬉しい声を頂いています。

もちろん無料で、めんどくさくなったら簡単に解除できますのでよかったですね

[メルマガの無料登録はこちらをクリック](#)

ではでは、このへんで終了したいと思います。最後まで読んでいただきありがとうございます。

fourleaf guitar lesson

奥田 喜聖

発行人：株式会社 fourleaf

奥田 喜聖

メルマガ：[fourleaf guitar lesson 公式メルマガ](#)

info@fourleafsupport.com

[fourleaf guitar lesson](#)